

アカデミックジャパニーズ習得を目指すノートテイキング授業の実践 —初級から上級にいたるまでのカリキュラムの一提案—

発表者：黒崎亜美・黒崎誠（ラボ日本語教育研修所）

1. はじめに

日本語教育の実践研究においてノートテイキングを扱うものは非常に少ない。自らの口頭発表の補助として有効なレジюмеを作成する実践の報告（田中 2008）などはあるが、音声情報をいかに文字情報に変換し整理するのかという実践の報告や研究はあまり見られない。しかし、音声情報を記録する目的でノートテイキングを行なうという言語行動は非常に重要なものであり、大学・大学院、専門学校へ進学する学習者のみならず日本での就職を目指している学習者にとっても必要な技能である。

本発表では、上級の学習者を対象に行ったノートテイキングの授業の実践内容の報告を中心に、それに至る初級レベルから上級レベルにかけてのノートテイキングの長期的な授業計画を提案する。また、この授業はノートテイキングの技能習得だけでなく第二言語習得の側面からも有効であることを示す。

2. 先行研究

Nation & Newton(2009)は、第二言語習得において音声情報を文字情報に転換すること（Information Transfer）が非常に重要であり、ノートという新たな形にまとめ直す活動を言語習得の有効な手段として提案している。彼らは実験において、聴解もしくは読解で得た情報に対する Information Transfer を観察した。その結果 Note-taking の活動を行なったグループのほうが行なわなかったグループよりも深い情報内容の処理が行なわれているという結論に至った。大手山・黒崎（2010）は中級レベルでのノートテイキングの授業を報告し、ノートの完成度には聴解力だけでなく読解力も影響している可能性があることを指摘している。

3. 実践報告

当校の上級クラスでは継続的にノートテイキングの授業を行っている。今回は、今期行っている授業について紹介する。

3.1. クラスの概要

クラスは、ベトナム、韓国、中国、マレーシア、アゼルバイジャン、バングラデシュ、モンゴル、チベットの8つの国と地域の学習者で構成されている。学習時間は1000～1400時間である。

3.2 授業の概要

今期のノートテイキングの授業は、まず「ノートテイキングの基礎」という基礎的な授

業が2回、そのうち「講義を聞く」授業が4回の計6回で構成されている。

「ノートテイキングの基礎」では中級で学習したノートテイキングのスキルを確認し、それらが一つの談話の中でどのように使用されることになるかを復習する。

「講義を聞く」では、今まで学習したノートテイキングのスキルを使用し、一つのテーマの講義（約20～30分）のノートを作成する。この段階で学習者のノートをいったん回収する。次の授業では自分が書いたノートを参照しつつ、前回の講義の内容を問う小テストに解答する。

3.2.1. 授業の目的

上級レベルにおけるこの授業の目的は、以下の3点である。

- 1) 中級までに学習したノートテイキングのスキルの確認：中級までに学習したノートテイキングのスキルにどんなものがあつたのかを確認するとともに、そのスキルを必要な場面で適切に使用できるようになることを目的とする。
- 2) 音声情報から、どの「型」でまとめることが適切であるかを判断できるようになる：音声情報を聞いた上で、その談話がどの機能を持つものなのか、またそれらをどの技能を使って整理するとよいかを判断できるようになることを目的とする。また、それをノートの形式にまとめることができるようになることも目的の一つである。
- 3) 情報の取捨選択ができるようになる：講義において話される情報は、全てノートにとる必要があるとは限らない。情報に優先順位をつけ、いらない情報を除き、必要な情報でノートがまとめられるようになることを目的とする。

3.2.2 授業の流れ

「ノートテイキングの基礎」で中級までに学習したノートテイキングのスキルを確認したのち、以下に示す流れで「講義を聞く」授業を行う。

- ① 教師がレジюмеを作成し、そのレジюмеに沿って講義を進める。学習者はわからない点などを質問しながら講義を聞き、メモ（母語でも構わない）をとる。
- ② ①でとったメモを基にノートを作成する。その際に教師にさらに質問をする場合もある。
- ③ ②のノートを提出する。教師はこの段階でノート进行评估する。なお、添削はノートのコピーに記入し、提出されたノートそのものに教師は何も手を加えないようにする。次の小テストの際にノートを参照しながら解答するためである。
- ④ 次の回でノートを返却する。学習者はそのノートを見ながら前回の講義の内容に関する小テストに解答する。
- ⑤ 小テストの答え合わせが済んだ後に、③の添削を書き込んだコピーを返却する。

3.3. 評価

学習者が書いたノートの内容のみを評価する。小テストの点数は評価対象としない。小テストはあくまでも、自分のノートが有効であるか否かを自ら確認するために行うものだからである。

ノートの評価には以下の評価表を使用する（表1）。

表 1：ノートテイキングの評価表

内容（９）			型（９）			表記（６）			ボーナス	合計
量	正誤	関係	構成	課題	技術	文字	語彙	文法		
/3	/3	/3	/3	/3	/3	/2	/2	/2	/1	/25

「内容」「型」「表記」を評価の大項目とする。

ここでいう「型」とは、談話が持つ機能をまとめる際にその機能が際立つようにしたノートのスタイルのことをいう。また、表中「型」の中にある小項目「課題」とは、講義の談話がもつ機能に合った適切な「型」を使用できたかどうかを指す。したがって、教師は講義を準備する際に、談話の持つ機能を明確に意識しながら講義内容を構成する必要がある。

4. 初級から中級にかけてのカリキュラムの提案

4.1. 「メモ・ノート」の授業

当校では、ノートテイキングの授業は、「メモ・ノート」の名称で中級中期から上級後期までの間（学習時間 600～1600 時間）に行われる。中級レベルでの「メモ・ノート」の授業目的は 3 つある。以下に示す。

1) 「メモ」と「ノート」の違いを理解する：「メモ」と「ノート」について、この授業では次のように区別する。①「メモ」は音声情報を書き留めておくもので整理、保存を目的にしない。したがって母語でも構わない。②「ノート」は記録として残すことを目的にまとめる。したがって、長時間経過した後に自分が見て分かること、他者が見て元の音声情報を再生できることが重要である。授業では上記の「メモ」「ノート」の違いを意識づける。

2) ノートの「型」となるものを学習する：ここでいう「型」とは、その談話が持つ機能をまとめる際にその機能が際立つようにしたノートのスタイルのことをいう。扱う機能は以下のとおりである（表 2）。

表 2：扱うノートの「型」

それぞれの「型」には、整理するのに便利な技能がある。例えば、「手順」では数字の使い方、「比較」では表の使い方などである。これらの技能を修得することが中級レベルでの「メモ・ノート」の授業での大きな目的である。

中級中期 (学習時間 600～800 時間)	中級後期 (学習時間 800～1000 時間)
●手順 ●時間軸② ●比較	●理由 ●実験 ●時間軸②（事件） ●優先順位

3) 音声情報から、どの「型」でまとめることが適切であるかを判断できるようになる：音声情報を聞いた上で、その談話がどの機能を持つものなのか、またそれらをどの技能を使って整理するとよいかを判断できるようになることを目標とする。また、それをノート

の形式にまとめることができるようになることを最終目標としている。これが上級レベルの「講義を聞く」授業につながる。

4.2. ノートテイキングに必要な要素

ノートテイキングは「メモ・ノート」の授業だけで完成するわけではない。学習者は、ノートの「型」を理解するためには、談話の機能を意識できることが前提である。そのために、談話の機能に注目させる読解も、ノートテイキングのスキルを習得するためには重要な要素である。

さらに、初級からの文字学習も重要となる。初級前期で文字の学習が終わった直後からディクテーションのトレーニングを積むことが必要である。音声を文字情報に転換できることがノートテイキングの大切な要素の一つだからである。したがって、まずは単語、さらに1文をディクテーションできるように練習を積み重ねる。さらに、ある程度の長さの音声情報の中から重要な情報をキーワードの形で拾い上げられることがノートテイキングでは求められる。

5. まとめ・今後の課題

ノートテイキングは、大学・大学院に進学する学習者だけではなく、就職を希望する学習者にとっても、重要なスキルである。しかし、これを“スキル”としてだけでなく言語を受容する処理過程として捉えることで、ノートテイキングが「聞く」「書く」能力のみならず、「読む」能力とも大きく関わりを持つことがわかる。これは、読解力がノートテイキングに影響を与えること、またノートテイキングそのものが読解の情報処理能力に影響を与えるという双方向の効果である。

本発表で紹介するのは、初級のディクテーションから始まり、上級での「講義を聞く」授業に至るという長期にわたる授業の流れである。つまり、「講義を聞く」の効果は上級におけるこの授業のみで得られるものではないということである。また、この流れはあくまでも一提案であり、今後、追跡調査を行ってこれらの技能を学習者が実際のどのような言語活動の中で使用していくかを観察したいと考えている。さらに、ノートテイキングの授業の結果が、聴解、読解、ライティング、さらに学習者自身のプレゼンテーションやそれに伴うパワーポイント作成など、それぞれの能力にどのように影響を与えているのかを何らかの方法で測定したい。

【参考文献】

- Nation, I. S. P. & Newton J. (2009) *Teaching ESL/EFL listening and speaking*.
Routledge, Taylor & Francis.
- 大手山藍衣子・黒崎亜美 (2010) 「中級レベルにおけるノートテイキングの授業」『平成22年度日本語学校教育研究大会予稿集』, 132-135
- 田中真寿美 (2008) 「新聞の人物欄を用いた発表およびレジュメ作成の試み」『日本語教育方法研究会誌』 vol. 15, 20-21